

令和7年度 学校評価アンケート結果の分析と改善策について

今年度の学校評価に多数のご協力をいただき感謝申し上げます。以下のとおり集計結果をご報告いたします。利府高校をさらに良い学校へ、また活気溢れる学校にしていこうという生徒・保護者の皆様の思いや期待に添えるよう取り組んでまいります。今後ともご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

なお、集計結果（実現度調査）の詳細については、本校ホームページ[<https://rifu-h.myswan.ed.jp/evaluated>]をご覧ください。



実施日：令和7年11月27日（木）
回収日：令和7年11月28日（金）
対 象：生徒（回答数764名 回答率97.2%）、保護者（回答数559名 回答率71.1%）、教職員（59名）
「よく出来ている」、「大体出来ている」、「あまり出来ていない」、「出来ていない」の4段階による評価

実現度調査の分析と改善策【全年次共通】



分掌	実現度調査 質問項目	良好ととらえている割合 「よく出来ている」＋「大体出来ている」	前年度比	分析	改善策
教務	スクールポリシーに基づいた教育課程が編成・実施されている。	生徒 98%	➡ 2%	生徒、教職員の肯定的な回答は昨年度の約96%から約98%となっており、引き続き高い評価を得ている。本校の校風と伝統を肌で感じながら学校生活を送っていると思われる。保護者にスクールポリシーを知る機会も十分だったのではないかと推測される。	引き続き教育課程、スクールポリシーについて理解してもらえるように努力する。また、学習指導要領の改訂に合わせて、新たなスクールポリシーの検討に取りかかる。
		保護者 97%	➡ 3%		
		教職員 100%	➡ 3%		
教務	学ぶ意欲を引き出し、学力を身に付けられるような授業が行われている。	生徒 94%	➡ 4%	肯定的な回答の割合は生徒、保護者、教職員ともに高い水準を維持している。特に校内で多くの研究授業を実施し、教科の枠にとらわれずにお互いに参観することで教員間で授業の工夫、改善が試みられた結果だと思われる。	校内での研究授業を積極的に行い、生徒に学ぶ意欲を引き出す授業の工夫、改善を継続していきたい。公開授業参観や教授法の研修を受けた教員から伝達講習を積極的に行うように努力していきたい。また、査査前学習会、課外授業、個人への添削指導、担任による進路面談の実施等、個に対応した指導を充実させていく。
		保護者 86%	➡ 0%		
		教職員 97%	↑ 11%		
生徒指導	挨拶やマナーなどの基本的生活習慣の確立に関する指導が行われている。	生徒 97%	➡ 1%	基本的な生活習慣の確立に関する指導については、ほぼ徹底できている。特に挨拶については、学校生活のあらゆる場面を通してその雰囲気づくりを行っており、その成果が浸透してきたと考えられる。一方で校外での登下校中のマナーに対する苦情などもあり、校内外を問わず基本的な姿勢を育むための継続的な啓発が必要である。	引き続き、自然に挨拶を交わせる雰囲気や学校全体を通じて作り上げる。その中で、基本的な生活習慣に関する1人1人の意識の高揚に繋げていきたい。また、登下校中のマナー確立に関してはH-Rや集会、部活動等を通じて継続的に啓発活動を行うと共に、地域のボランティア活動等の機会を増やし、外部や社会全体に目を向けさせることでより広い視野を育む指導を模索していきたい。
		保護者 95%	➡ 1%		
		教職員 100%	➡ 0%		
進路指導	進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている。	生徒 95%	➡ 0%	概ね昨年度と同様の結果であり、肯定的な回答を多くいただいた。年3回（3年次は1回）実施している進路希望調査をとおして進路目標を明確にし、それぞれの目標に応じた進路指導を行っているという認識が得られているものと思われる。	今後も、生徒たちの進路意識を高め、早期に進路目標を明確化できるよう支援していきたい。また、生徒一人ひとりの多様な進路希望に応えるため、全教職員の連携を大事にしながら取り組みを進めていきたい。
		保護者 89%	➡ 2%		
		教職員 93%	➡ 4%		
健康教育	教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている。	生徒 95%	➡ 0%	入学式でのカウンセラーの紹介やカウンセリング日程のHP掲載を通して、カウンセリングについて周知できた。また、年2回の学校生活調査の結果をもとに、生徒の状況把握やカウンセリングにつながるなどの対応により、良好な結果を得たと捉える。	悩みをもつ生徒や保護者が気軽に相談できる環境が整っていることをHPなども活用しながら広報活動を行ってきたい。また、学校生活調査の実施により、生徒の状況把握に努め、保護者とも連携しながら、早期対応できる相談体制づくりに動んでいきたい。
		保護者 92%	➡ 5%		
		教職員 100%	➡ 2%		
生徒指導	部活動は活発に行われている。	生徒 99%	➡ 0%	肯定的な回答の割合が総計で98.6%と非常に高い数値が得られている。対象差・認識差ともに少なく、前年度同様高い水準である。各部ともに活発に活動し、運動部・文化部とともに各種大会で数多くの好成績を残していることも影響したと考える。	継続して生徒が主体的かつ積極的に部活動に取り組める環境づくりに努める。部活動は本校の大きな特色であり、周囲からの期待度も高いため、生徒に自覚と責任を持たせていくことが必要である。同時に学習と部活動との両立や学習時間の確保について充実させていきたい。
		保護者 97%	➡ 0%		
		教職員 100%	➡ 0%		
生徒指導	生徒会活動は活発に行われている。	生徒 90%	➡ 2%	前年比と変わらず、良好と捉えている結果が出ている。十侍っ子ブラザーシップなどでもリーダーシップを発揮し、生徒総会では資料をPDF化してIT化を図るなど、各活動に創意工夫を凝らしながら行えたことが高い評価につながっていると考えられる。	生徒会執行部は、生徒会行事や利府高祭の企画・運営、十侍っ子ブラザーシップにおけるリーダーの役割等に積極的に取り組んでいる。今後も学校活性化のために、生徒が主体的に課題を解決し、行動できるような組織作りを努め、本校の活動を外部に発信できる機会や地域の活動に積極的に参加する機会を増やし、地域の信頼を得られるよう努めていきたい。
		保護者 96%	➡ 1%		
		教職員 93%	➡ 0%		
生徒指導	有意義な学校行事がある。	生徒 95%	➡ 0%	前年比と変わらず、良好と捉えている結果が出ている。文化祭・体育大会とともにコロナ禍以前の形態に完全に戻った開催となり、文化祭・体育大会とともに最大限の工夫を凝らしながら、生徒にとって有意義な行事を開催することができた。	新たな行事を増やしたり、行事の日数を延ばすことは現状では難しい。よって、限られた時間と予算の中で、行事内容の充実を図ることが必要である。特に大きな行事である利府高祭や体育大会において、実行委員を筆頭に意見を集約し、生徒が主体的に課題解決に取り組む、内容の充実を図る能力の育成に努めたい。
		保護者 95%	➡ 3%		
		教職員 100%	➡ 0%		
企画情報	地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる。	生徒 96%	➡ 3%	保護者・地域やの皆さんが行事や部活動を通じて来校する機会が多いことが肯定的評価につながったと思われる。利府高校ならではの行事や地域との関わりを充実させ、さらに魅力的な学校として地域に貢献できる学校を目指していきたい。	本校は、「梨の花粉交配」や「スポーツ交流」、「ブラザーシップ」など地域に根ざした教育活動を展開している。町との包括的連携協定を生かし新しい社会の話題を積極的に活用し、地域連携に努めたい。
		保護者 94%	➡ 4%		
		教職員 97%	➡ 6%		
総務	災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている。	生徒 96%	➡ 2%	質問項目について肯定的な回答の割合は、生徒、保護者、教職員全てでわずかながら改善した。メール配信等を継続して行っている効果があらわれたものと考えられる。しかし保護者の肯定的評価が79%とまだ改善の余地がある状況なので、災害時の登下校や避難について、保護者に更なる周知を図る必要がある。	現状でも迅速に対応しているマニュアルの改善をこれからも継続して行っていく。クマ対策や、盗撮対策などあらたな問題も起きていることから、臨機応変な対応を今後も心掛けていきたい。マニュアルの更なる周知を図り、保護者、生徒、教職員の理解が得られるように努める。災害時における生徒の学校待機や保護者への引き渡しについては、入学時の家庭環境調査票で確認済みであるが、今後もメール配信等を更に活用して周知出来るように努めていきたい。
		保護者 79%	➡ 3%		
		教職員 92%	➡ 1%		
企画情報	学校便りなどによって、学校の情報は適切に伝えられている。	生徒 96%	↓ -1%	今年度も、お便り形式での学校情報の発信とともにHPによる各種大会結果、行事の情報発信を行っているが、紙媒体での保護者への情報伝達に課題がある。紙媒体からオンラインでの情報発信へ時代が変化している中で、本校の魅力を効果的に発信するために、よりニーズに対応した情報伝達に努めていきたい。	本校の広報機関誌「燃えろ！利府高」などの毎月の発行のほか、本校の特色ある教育活動や生徒の功績を校内や校門前に結果を掲示し情報発信に努めた。本校ホームページについては、今後も学校生活や活動情報の速やかな発信に努めると共に、卒業生の活躍や地域連携の内容なども情報発信し、在校生・卒業生の励みとなるよう発展させていきたい。
		保護者 83%	↓ -1%		
		教職員 95%	↓ -1%		
事務	校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている。	生徒 92%	↓ -1%	開校以来42年目を迎え、経年による施設の老朽化・設備の陳腐化が認められる。建物躯体の強度低下など致命的な欠陥はないものの、校舎の水回り・校庭の排水不良・電気設備等の機能的不良合が認められ、環境維持のための補修・修繕に予算を費やしている状況である。	今年度は第二体育館のバスケットゴール改修工事を実施した。また、将来工事の設計として自動火災報知機制制御の改修設計を行った。その他小破修繕や施設保全委託業務等を随時実施している。今後も引き続き校舎・設備の改修計画を興業委担当課と共有・予算獲得の上、本校に学ぶ生徒が安全・快適に過ごせるよう、適切に対応していきたい。
		保護者 91%	↓ -1%		
		教職員 78%	➡ 5%		
生徒指導	日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる。	生徒 92%	➡ 0%	前年比と変わらず、良好と捉えている結果が出ており、日頃からいじめは絶対に許さないという姿勢や各事業に対する丁寧な対応や取り組みが認識されてきている結果が伺える。HP上への「利府高校いじめ防止基本方針」の掲載や、PTA総会・予備校総会、三者面談等での保護者への周知、集会やH-R等での生徒への啓発等、今後も本校のいじめの早期発見・解決に努めていきたい。	いじめの未然防止・早期発見・早期解決への取り組みをさらに教職員で共有し、全員が多面的に生徒の様子や状況を把握するよう徹底する。さらに、生徒指導部では今年4回の学校生活調査（いじめアンケート）を通して、こまめな調査によるいじめの未然防止・早期発見・早期解決の取り組みが定着してきているが、さらに内容等の検討を重ね、早期発見・追跡調査・情報共有を徹底していきたい。
		保護者 88%	➡ 1%		
		教職員 100%	➡ 2%		
健康教育	学校生活は充実している。	生徒 96%	➡ 2%	昨年度よりも微増ではあるが、非常に良い傾向と捉える。学校生活の満足度については、学校生活調査の結果でも9割以上良好であった。一番の要因としては、家庭での支援や温かい見守りがあるからこの結果と捉える。	学校生活調査の実施により、少数ながらも学校生活に充実感をもてない生徒とその要因について把握し、家庭や校内の関係職員と連携しながら、面談やカウンセリングなど適切な対応を検討し実施していきたい。
		保護者 92%	➡ 1%		
		教職員 100%	➡ 7%		

実現度調査 質問項目		良好ととらえている割合 「よく出ている」＋「大分出ている」	前年度比	分析	改善策
教務	家庭学習を含めた自主・自立的な学習態度を育成している。	生徒 92%	⇒ 3%	生徒の肯定的な回答は前年度同様高い水準を保っている。教職員による肯定的な回答の減少は、前年度から導入したスタディサプリによる生徒の自主・自立的な学習態度が本当に育成されているのか、また学力向上にスタディサプリが効果的な役割を果たしているのかを検証しなければならない時期に来ていると思われる。	生徒の自主・自立的な学習態度を養うためには知識だけでなく、「何のために学ぶのか」を考えながら学習に臨めるように環境を整えていかなければならない。自己の進路目標や職業観を早期に確立させることにより、日々の課題への取り組み方にも変化が出てくるとされる。
		保護者 79%	⇒ 5%		
		教職員 54%	↓ -10%		
教務	進学先の学業に対応できる学力を養成している。	生徒 95%	⇒ 2%	教職員の回答が5%増加したものの、一般入試での合格者が減少傾向にあるのを考えると、学力養成が十分であるとはいえない。学習や部活動の実績を生かして総合型選抜で受験する生徒が多いのは本校の特色でもあるが、進路に対する意識に変化が生じているかを検証する必要がある。	授業では生徒に主体的に学ぶ姿勢を身につけさせ、基礎学力の定着を図っていく。また、課題や小テスト、スタディサプリなどをうまく組み合わせで学習内容を確実に定着させるとともに、成績上位層には発展的な内容に積極的に取り組ませる。生徒に進路目標を一貫して挑戦できる学力を身につける授業を展開していきたい。
		保護者 79%	⇒ 1%		
		教職員 75%	⇒ 5%		
進路指導	3年間を見通した計画的・継続的な進路指導体制が確立されている。	生徒 96%	⇒ 1%	概ね昨年度と同様の結果であり、肯定的な回答を多くいただいた。一定程度ではあるが本校の進路指導体制が周知されているものと思われる。しかしながら、指導内容をより充実させるため、指導内容の見直しも必要である。	今年度の内容を継続しつつも、問題点等を検証し、改善策を検討することで、より充実した進路指導体制の確立を目指していくことが必要である。また、生徒及び保護者に対して、本校の進路指導体制をより一層周知してもらえるよう、積極的に情報を発信する機会を設けていきたい。
		保護者 85%	⇒ 3%		
		教職員 90%	⇒ 6%		
進路指導	「総合的な探究の時間」における進路指導が充実している。	生徒 97%	⇒ 1%	概ね昨年度と同様の結果であり、肯定的な回答を多くいただいた。毎年「総合的な探究の時間」の指導内容を見直しており、前年度の問題点を踏まえながら本年度の「総合的な探究の時間」の指導計画を作成している。また、1年次の「総合的な探究の時間」では、町長をはじめ利府町職員の皆様に協力をいただいている。	大学の選抜（特に総合型選抜）において、高校生活で実施した「探究活動」の内容を問われることが多くなってきている。本校においても1・2年次の「総合的な探究の時間」の計画の中に「探究活動」を取り入れている。生徒たちにとってより充実したものになるよう、指導内容の創意工夫に努めていきたい。
		保護者 87%	⇒ 5%		
		教職員 81%	⇒ 1%		
進路指導	個に応じた適切な進路指導が行われている。	生徒 95%	⇒ 2%	概ね昨年度と同様の結果であり、肯定的な回答を多くいただいた。進路指導部のみならず、全教職員の協力のもと、個に応じた適切な進路指導を行うことができた。	生徒たちの進路選択が多種多様であることから、個に応じた適切な進路指導が重要である。1・2年次の生徒の個別面談や、3年次の生徒を対象とした総合型選抜及び学校推薦型選抜に向けた個別指導等を継続していきたい。また、一般選抜の受験者の支援の充実にも努めていきたい。
		保護者 82%	⇒ 1%		
		教職員 95%	⇒ 9%		
健康教育	全校清掃、校内外の美化活動を実践している。	生徒 95%	⇒ 1%	生徒はもちろん、教職員では9%増加し、良好な結果となった。毎日の清掃活動に加えて、月1回の大掃除と年2回のワックス清掃に生徒・教職員とも丁寧に取り組んでいる成果と捉える。	月1回の大掃除については、短時間で集中して取り組めるように各清掃分担区の重点箇所を月ごとに決めて実施していくことを検討したい。また、床の雑巾がけなどの負担をできるだけ減らして効率を図るため、清掃用具も工夫を検討していきたい。
		保護者 93%	⇒ 2%		
		教職員 93%	⇒ 9%		
図書視聴覚	「人の集まる図書館づくり」に努め、学習センターとしての機能が充実している。	生徒 90%	⇒ 3%	昨年度と比較すると数値的な結果は微増であり、概ね良好と捉えていく。図書館運営については、さらなる啓発活動をおこない図書館の情報発信をしていく。	今後も生徒・教職員の要望を聞きながら蔵書の充実にも努めて魅力ある図書館づくりを推進する。また、図書館よりの発行等を通して、利用促進に向けた情報発信に継続して取り組んでいく。
		保護者 83%	⇒ 4%		
		教職員 86%	⇒ 4%		
健康教育	衛生管理を徹底し、生徒の健康の保持増進に努めている。	生徒 95%	⇒ 1%	保護者の肯定的な数値が低いのは、集団生活を送る学校の衛生管理について心配する当然の結果といえる。環境整備委員会を中心に冬場の換気の呼びかけや加湿器・サーキュレーターなどの備品管理と活用から、生徒からは好結果を得られたものと捉える。	環境整備委員会を中心に、換気についての放送による呼びかけのほか、扇風機や加湿器・サーキュレーターの備品を適切な時期に設置し、それら備品の清掃や管理・補充に迅速にかつ丁寧に取り組んでいきたい。
		保護者 86%	⇒ 1%		
		教職員 95%	⇒ 2%		
総務	PTAや同窓会活動の充実に努めている。	生徒 —	—	肯定的な回答の割合が改善された。文化祭、体育祭での「見えるPTA活動」や「生徒の活動を支援する同窓会活動」についての広報活動により、認知度が高まっている。一方で「あまり出ていない」「出ていない」と評価する保護者については約6%弱と昨年度よりやや低くなっているものの一定数いることから、更なる活動内容の周知を図り、改善を図ってきたい。	今年度から総会を対面式に戻したり、研修旅行を復活させるなど、コロナ禍以前のレベルに活動内容が戻ってきた。またPTA行事への参加率内をメール配信に加え、2次元コード等を活用しながら継続することにより集約も以前より容易になった。しかしながら参加者数は昨年度より若干増えたもののまだ伸び悩んでいる。今後も積極的に広報活動を行い、参加者を増やしていく必要がある。
		保護者 94%	⇒ 1%		
		教職員 100%	⇒ 2%		

実現度調査の分析と改善策【1年次】

実現度調査 質問項目		良好ととらえている割合 「よく出ている」＋「大分出ている」	前年度比	分析	改善策
1年次	体験学習（大学見聞会）をとおして、学問研究の場に直接触れることにより、大学で学ぶ意義について学習し、進路に対する視野を広げる指導が行われている。	生徒 95%	⇒ 1%	大学見聞会や進路に関する適正検査などを通して進路に関する基本的な情報を得ることで、95%の生徒は、大学で学ぶ意義や進路に対する視野を広げられたと捉えることができる。しかし、進路が未定の生徒や、進路について迷っている生徒もあり、具体的な行動に移れていないことなどから、15%の保護者の方々には肯定的に捉えられない部分があると考えられる。	来年度の一泊総合大学や各種適正検査等を基に進路意識を高め、さらに、総合的な探究の時間での進路研究などを通して自己の適性を知り、進路目標をより明確にしていくための機会を増やしていきたい。また、進路達成に向けて必要な具体的な内容については、生徒はもちろん、保護者の方々に向けても三者面談や進路説明会等の機会を捉えて情報を提供していくことを目指したい。
		保護者 85%	⇒ 7%		
1年次	継続的に週末課題を実施することにより、家庭学習の習慣化が図られている。	生徒 94%	↓ -1%	スタディサプリの活用や、各教科からの継続的な週末課題を通して、多くの生徒が家庭学習に取り組んでいることが、94%という高い自己評価率につながっているものと考えられる。しかし、保護者の方々には、家庭におけるそれらの取り組みが不十分であること、成績等につながっているという実感が得られていないことから、生徒よりも低い評価になっているものと考えられる。	週末課題などを今後も継続することで、家庭学習習慣のさらなる定着を目指したい。スタディサプリを使うことで長期休業中でも、部活動との両立を図りながら積極的に学習に取り組める体制をしっかりと活用させたい。また、理解が不十分な内容等については個々が主体的に取り組めるようになることで学力の向上につなげたい。さらに、成績や模試の結果から自己分析を行い、自らの視点をもって家庭学習や課外講習へ積極的に取り組めるよう支援したい。
		保護者 81%	⇒ 2%		

実現度調査の分析と改善策【2年次】

実現度調査 質問項目		良好ととらえている割合 「よく出ている」＋「大分出ている」	前年度比	分析	改善策
2年次	一日総合大学をとおして、実際の大学の講義を体験し、進路選択についての意識を高める指導が行われている。	生徒 95%	↓ -2%	一日総合大学を通し、大学についての基礎知識を得ることで、進路選択に対する意識がおおむね高まったと捉えることができる。担任との面談や年間の課外講習などを通して、進路について具体的に考える機会が増えているが、保護者の割合が昨年度に比べて下がった。家庭でも進路について話し合う機会がおおむね増え、保護者の視点からも良好という結果になったものと考えられる。	これまで総合的な探究の時間で行ってきた探究学習をもとに、各自が目指す進路希望先への準備と内容を整理し、より発展的なものへ仕上げていけるよう進路別学習などを進めていきたい。また、進路達成に向けて必要なことについては、早めに調べ行動するように促し、進路別学習や面談などを通して、できる限りより丁寧に情報を生徒だけでなく保護者にも提供しながら進路達成に向けて支援していきたい。
		保護者 82%	↓ -4%		
2年次	自学自習の習慣を定着させるため、週末課題等の実施が継続的に行われている。	生徒 98%	⇒ 1%	スタディサプリを導入し、国英数を中心に週末課題を継続的に実施した。ほとんどの生徒はオンラインで配信される課題に抵抗なく取り組んだようであり、実際に提出率も高いことから、98%という高い自己評価率につながっているものと考えられる。しかし、タブレットの導入で、生徒の取り組み姿が家庭でも見られることから、保護者も昨年度比で6%上昇し良好と捉えたものと考えられる。	それぞれの教科で週末課題などを継続して実施することで、生徒の家庭学習習慣の確立を目指したい。今年度も、長期休業期間を中心に課外講習を実施した。継続して学習に取り組むことももちろん、成績や模試の結果から自己分析を行い、弱点の克服や得意分野を伸ばすことの重要性について認識を高め、家庭学習や課外講習への積極的な取り組みを促したい。
		保護者 85%	⇒ 6%		

実現度調査の分析と改善策【3年次】

実現度調査 質問項目		良好ととらえている割合 「よく出ている」＋「大分出ている」	前年度比	分析	改善策
3年次	放課後や夏季休業中の課外講習を計画的に実施することにより、恒常的な学習習慣を呼びかけている。	生徒 96%	⇒ 1%	96%の生徒から肯定的な見方があった背景には、1年次から継続してきた平日課外講習と長期休業期間の課外講習を計画的に実施することで、特に進学を希望する生徒たちにとって、恒常的な学習習慣の意識付けが定着したことへの評価として見てとれる。	全体的には進学に向けての対策が遅い傾向にある。進学に関する基礎的な情報のほか、進学する意義などについて、生徒及び保護者ともできるだけ早く情報を共有することで、進学に対する高い意識と早い準備をもって、合格率増加へとつなげる工夫が必要である。
		保護者 88%	⇒ 6%		
3年次	希望する進路に応じたガイダンスや学習会を実施し、より明確な目標と学習計画が立てられるような指導が行われている。	生徒 97%	⇒ 1%	総合的な探究の時間で年間17回進路別ガイダンスを実施し、その時期毎に必要な準備を確認しながら進めることで、周囲の進捗状況も意識しながら計画的に準備を進めることができたことへの評価が、97%の生徒による肯定的な見方に至ったものと思われる。	進路別ガイダンスで、進学に向けての学習や手続きに向けて具体的に計画を立てることで、出願や受験に向けてスムーズに動くことができた。生徒がそれぞれの進路希望先に向けて主体的に動くことができるよう適切なガイダンスを実施していくことが必要である。
		保護者 88%	⇒ 3%		